3 車両受付をする

車両受付から、実際の OBD 検査がはじまります。車両受付とは、車両の情報をアプリに入力することです。
アプリでは、最初にモードを、続いて検査用スキャンツールを選択して、車両受付を行います。

ご注意

電子車検証または車検証等の備考欄に「OBD 検査対象車」（電子車検証の場合は「OBD 検査対象」）などの記載がある車両は、法令で OBD 検査の対象とされています。

備考
OBD 検査対象車　または　OBD 検査対象

なお、OBD 検査の対象となる車両であっても、OBD 検査が不要となる場合があります。

■車両受付が可能な車両

特定 DTC 照会アプリでは以下の条件を満たす場合に車両受付以降の操作を実施できます。

- 電子車検証または車検証等に「OBD 検査対象」と記載がある
- 電子車検証または車検証等に記載（記録）の OBD 検査開始年月日以降である
- 初度登録年月（軽自動車は初度検査年月）から 10 ヶ月経過している

また、OBD 検査対象外であっても一部の車両については車両受付以降の操作を実施できます。
ただし、以下の車両については車両受付を実施できない（車両情報入力時にエラーとなる）、または車両との通信が行えない場合があります。

- 並行輸入自動車（型式が「不明」または型式の前後に「ハイフン（－）」があるもの
- 試作車、組立車
- 初度登録年月（軽自動車は初度検査年月）が平成 22 年 8 月以前の車両
- 排ガス規制を受けない車両（EV、FCV 等）

詳細については、「4.1 OBD 検査の要否を確認する」参照してください。

3.1　車両受付をする前に

車両受付をする前に、以下のチェックを行ってください。

☐ **必要な機器や書類、インターネット環境が用意されている**

- 電子車検証または車検証等
- 検査用スキャンツール（AndroidOS がインストールされた端末と VCI）
- 車両

☐ **使用する端末に、アプリがインストールされている**

インストール手順については、「7.12 アプリをインストールしたいとき」を参照してください。

☐ **特定 DTC 照会アプリにログインするためのユーザーID とパスワードを持っている**

ユーザーID とパスワードが分からない場合は、工員／検査員の方は管理責任者または統括管理責任者に確認してください。

3.2　モード・検査用スキャンツールを選択する

用途に応じて、利用するモードを選択します。次に、車両に接続する検査用スキャンツールを選択します。

ご注意

車両と検査用スキャンツールを接続する前に、アプリでこの作業を行ってください。

1. ログインする

「ユーザーID」と「パスワード」を入力して、「ログイン」を押します。

メモ

ログイン操作については、「2.1 ログインとログアウト」を参照してください。

2. モードを選択する

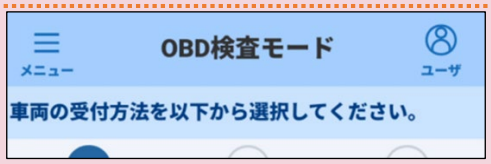
表示されているいずれかのボタンを押します。なお、表示されるモードは利用者の区分に応じて異なります。

各モードの操作方法に大きな違いはありません。いずれのモードを選択しても、検査または確認の実施履歴としてシステムに記録されます。

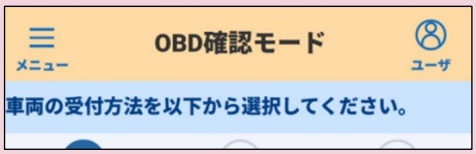
ご注意

選択するモードにより、画面上部の色が変わります。

「OBD 検査モード」を選択した場合



「OBD 確認モード」を選択した場合



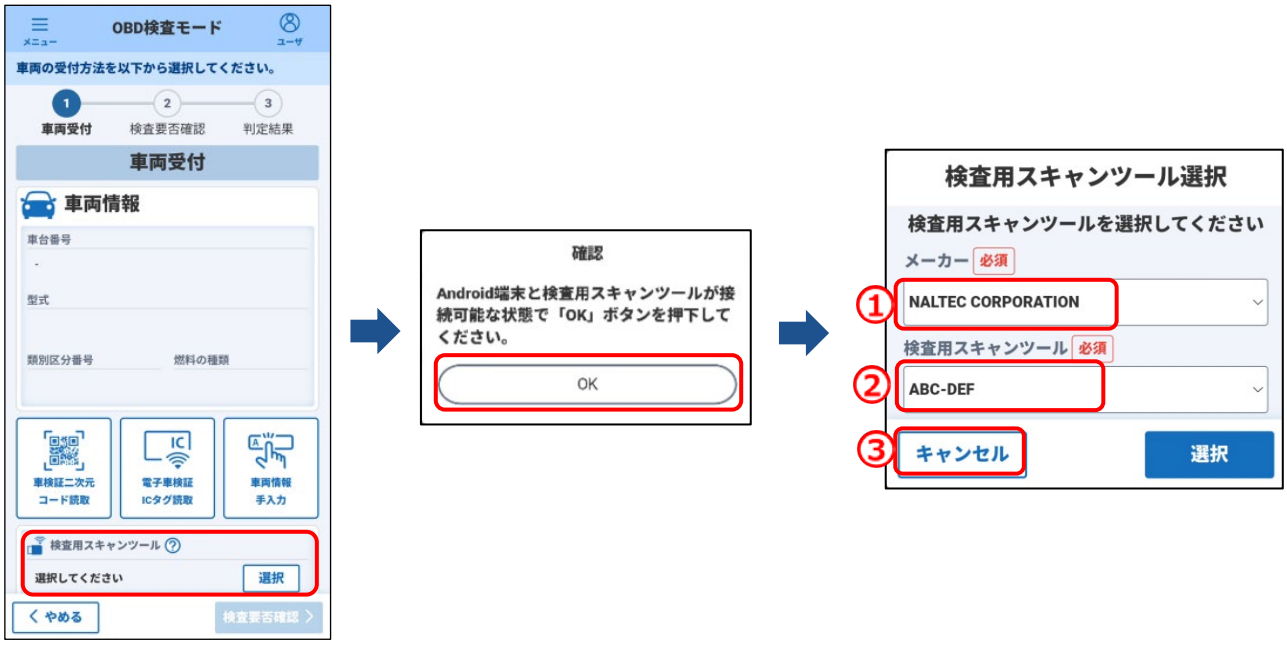
以下の表を参照して、用途に応じてモードを使い分けてください。

モード	利用者	用途
OBD 検査	指定工場の検査員	法令に準拠して OBD 検査を実施する際に利用します。
OBD 確認	指定工場、認証工場の工員および検査員	点検・整備時に、OBD 検査と同等の確認（OBD 確認）を行う際に利用します。ただし、以下の条件等により実施できる項目または表示内容が異なる場合があります。 【OBD 検査対象車（OBD 検査適用（開始）時期以降)】 • OBD 検査と OBD 確認で実施できる項目は同一です。 【OBD 検査対象車（OBD 検査適用（開始）時期以前)】 • 一部の車両において、安全関係装置の OBD が確認できません。 • 排ガス関係の OBD を確認できますが、一部の車両において DTC（コード）のみが表示され、DTC の名称（異常内容）が表示されません。 【OBD 検査対象外車(J-OBD Ⅱ またはディーゼル重量車 J-OBD Ⅱ 規制)】 • 国際規格（OBD Ⅱ）に準拠した排ガス関係の OBD を確認できますが、DTC の名称（異常内容）が表示されません。 【OBD 検査対象外車（J-OBD Ⅰ 規制)】 • 「検査要否確認」および「実行」まで操作が可能ですが、通信不成立となる場合があります。 【OBD 検査対象外車（排ガス規制を受けない車両（EV、FCV 等)】 • 「検査要否確認」まで操作が可能です。「実行」の操作は行えません。

3. 検査用スキャンツールを選択する

検査用スキャンツールのメーカー名・型式等および機器（検査用スキャンツール）を選択してください。表示されるメーカーの名称と検査用スキャンツールの商品名は異なることがあるため、選択するメーカー名称および機器名が不明な場合は、ツールメーカーや販売店等にご確認ください。なお、接続可能となる機器が 1 つの場合は、自動的に機器（検査用スキャンツール）が選択されます。

接続可能となる機器が 2 つ以上ある場合はプルダウンリストを押して、使用する機器（検査用スキャンツール）を選択してください。



No.	項目	説明
①	メーカー	プルダウンリストで、アプリがサポートしている検査用スキャンツールのメーカー名・型式等を選択します。
②	検査用スキャンツール	プルダウンリストで、接続している検査用スキャンツールを選択します。
③	キャンセル	選択した内容を反映せず、《車両受付》画面に戻ります。

メモ

- 検査用スキャンツールを選択したい場合、《検査要否確認》画面、《判定結果》画面で選択ができます。
- Bluetooth/USB を使用して検査用スキャンツールと接続する場合の画面操作については、「7.18 USB/Bluetooth 機器への権限確認画面が表示されたとき」を参照してください。

ご注意

- 選択したい検査用スキャンツールが存在しない場合、検査用スキャンツールが正しく接続されていない可能性があります。接続状況を確認後に、《車両受付》画面上の「選択」ボタンを押し、再度《検査用スキャンツール選択》画面を表示してください。それでも解決しない場合は、OBD 検査コールセンターにお問い合わせください。
- 選択したものと異なる検査用スキャンツールを車両に接続し検査を行った場合は、正常に作動しない可能性があります。検査用スキャンツールのメーカー名・型式等を確認のうえ、正しいスキャンツールを選択し、再度検査を実施してください。
- エラーの詳細については、「9.2 エラーメッセージと対処方法」を参照してください。

以上で、利用するモードと検査用スキャンツールの選択の操作は完了です。

続いて、「3.3 車両情報を入力する」に進んでください。

3.3　車両情報を入力する

《車両受付》画面で、検査を受ける車両の情報を入力します。使用する端末に搭載している機能の有無によって、以下の 3 つの入力方法があります。

- 端末のカメラ機能を使用して、電子車検証または車検証等の二次元コードを読み取る
  「■電子車検証または車検証等の二次元コードを読み取る場合」（P. 34）を参照
- 端末の NFC 機能を使用して、電子車検証の IC タグを読み取る
  「■電子車検証の IC タグを読み取る場合」（P. 38）を参照
- 読み取り機能を使用せず、車両情報を手入力する
  「■電子車検証または車検証等の情報を端末により入力する場合」（P. 40）を参照

車検証の情報と異なる車両で、誤って OBD 検査を実施した場合は、再度車両の受付からやり直し、正しい車両情報を入力のうえ、もう一度 OBD 検査を実施してください。

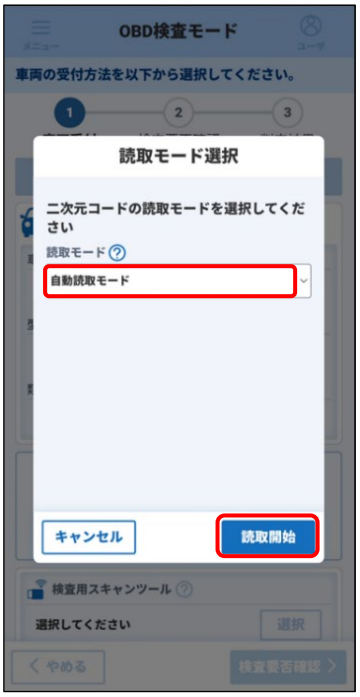
■電子車検証または車検証等の二次元コードを読み取る場合

ご注意

「自動読取モード」、「手動読取モード」において端末のカメラで二次元コードを読み取る際の操作方法等については各端末メーカーにお問い合わせください。なお、外部機器の二次元コードリーダは使用できません。

1.　「車検証二次元コード読取」を押す

2. 読取モードを選び、読取開始ボタンを押す



メモ

読取モードには以下のような違いがあります。

- 自動読取モード：特定 DTC 照会アプリ【Android】で定義された読取モード。電子車検証または車検証等の二次元コードを連続的に読み取る場合に選択します。
- 手動読取モード：特定 DTC 照会アプリ【Android】で定義された読取モード。電子車検証または車検証等の二次元コードを一つずつ読み取る場合に選択します。

3. 二次元コードを読み取る

電子車検証または車検証等に記載された「二次元コード 2」（QR2）、「二次元コード 3 」（QR3）の読み取り順序に制限はありません。

①②（QR 2 ）、③④⑤（QR 3 ）の二次元コードを読み取ります。

読み取った二次元コードのコード名が表示されます。

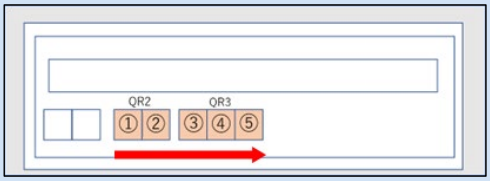
メモ

自動車予備検査証、限定自動車検査証から車両情報を読み取る場合

- 電子車検証または車検証と同じ順に読み取ります。

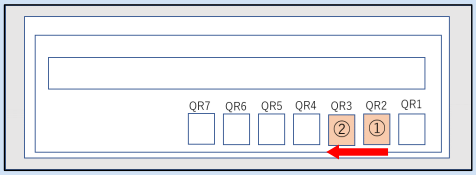
登録識別情報等通知書（登録車）から車両情報を読み取る場合

- ①②（QR 2 ）、③④⑤（QR 3 ）の二次元コードを読み取ります。



自動車検査証返納証明書（軽自動車）から車両情報を読み取る場合

- ①（QR 2 ）、②（QR 3 ）の二次元コードを読み取ります。

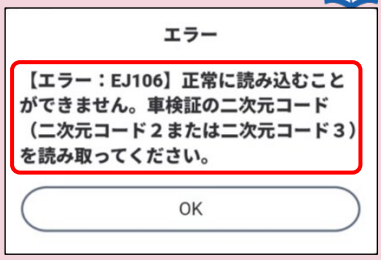


ご注意

以下のような原因で読み取りに失敗した場合、エラーメッセージが表示されます。
メッセージに従って、操作をやり直してください。

- 端末のカメラの起動に失敗した場合
- 二次元コード 2、3 以外の二次元コードを読み取った場合
- 登録車と軽自動車の二次元コードを混在させて読み取った場合

エラーの詳細については、「9.2 エラーメッセージと対処方法」を参照してください。



メモ

二次元コードがうまく読み取れない場合は、電子車検証または車検証等の情報を端末により手入力することもできます。詳細については、「■電子車検証または車検証等の情報を端末により入力する場合」（P. 40）を参照してください。

読み取った車両情報が登録されると《車両受付》画面に戻ります。

以下のように、入力した情報が反映されます。

以上で、車両情報の入力（「電子車検証または車検証等二次元コード読取」の場合）の操作は完了です。

次の操作を行う場合

「4　OBD 検査要否確認を行う」に進みます。

読み取りをやり直したい場合

再度、手順 **1.**から始めてください。

■電子車検証の IC タグを読み取る場合

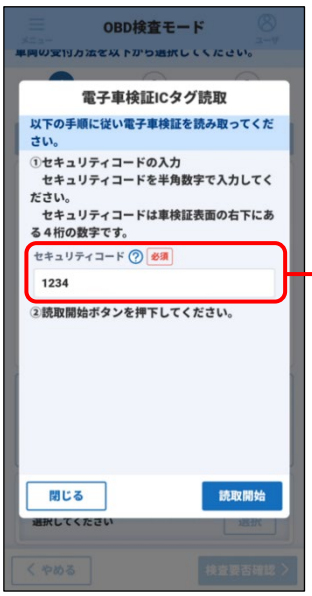
ご注意

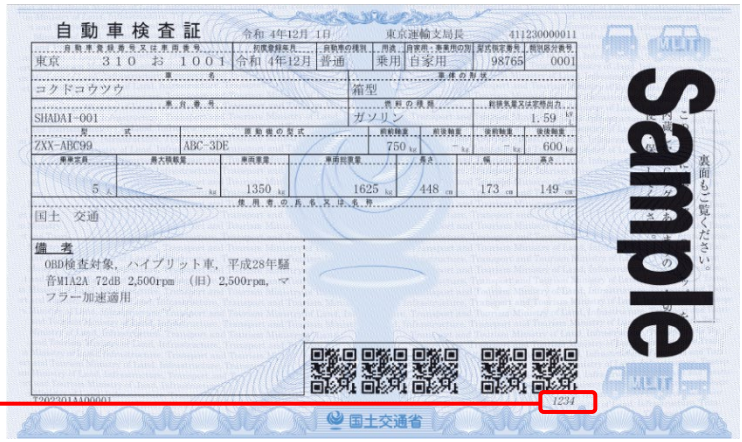
外部機器の IC タグリーダは使用できません。

1.　「電子車検証 IC タグ読取」を押す

2.　セキュリティコードを入力する

電子車検証の右下に記載されている 4 桁の数字を入力します。





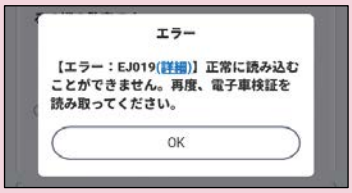
3. 「読取開始」を押し、端末を電子車検証に近づける

メモ

電子車検証がうまく読み取れない場合は、電子車検証の情報を端末により入力することもできます。詳細については、「■電子車検証または車検証等の情報を端末により入力する場合」（P. 40）を参照してください。

ご注意

- 金属製のものが近くにある場合、電子車検証がうまく読み取れないことがあります。
- 読み取りに失敗した場合、エラーメッセージが表示されます。メッセージに従って、操作をやり直してください。
  エラーの詳細については、「9.2 エラーメッセージと対処方法」を参照してください。



読取が完了すると、以下のように車両情報が反映されます。

以上で、車両情報の入力（「電子車検証 IC タグ読取」の場合）の操作は完了です。

次の操作を行う場合

「4　OBD 検査要否確認を行う」に進みます。

読み取りをやり直したい場合

再度、手順 1.から始めてください。

■電子車検証または車検証等の情報を端末により入力する場合

1.　「車両情報手入力」を押す

端末のカメラや、NFC 機能を使用しない場合はこちらを選択してください。

2.　車両情報を入力する

電子車検証または車検証等の記載内容を、入力または選択します。

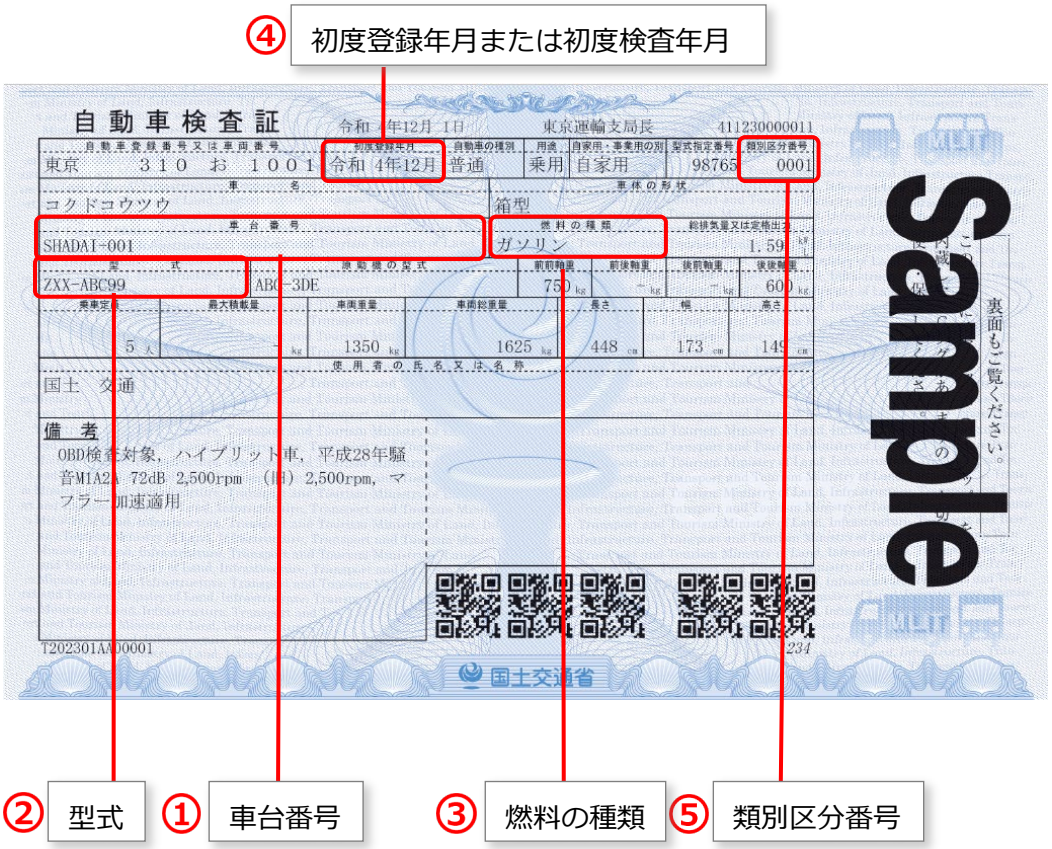
No.	項目	説明
①	車台番号	車台番号を半角英数・記号（「-」半角ハイフン）で入力します。車台番号に漢字が含まれている場合は、「職権打刻」を押して入力します。職権打刻の入力方法については、「7.5 車台番号に漢字が記載されているとき（職権打刻）」を参照してください。
②	型式	プルダウンリストで空白が選択された状態で、型式を半角で入力します。改造車などの場合は、プルダウンリストで以下のいずれかを選択します。 試作／組立／不明／改
③	燃料の種類	プルダウンリストから燃料の種類を選択します。
④	初度登録年月または初度検査年月	「あり」が選択された状態で、初度登録年月または初度検査年月（軽自動車の場合）を半角数字で入力します。 記載がない場合は、「なし」を選択します。
⑤	類別区分番号	電子車検証または車検証等の類別区分番号を入力してください。改造車の場合は、電子車検証または車検証等の備考欄に記載されている類別区分番号の値を入力してください。 記載がない場合は、「なし」を選択してください。
⑥	閉じる	入力または選択した内容を反映せず、《車両受付》画面に戻ります。

メモ

車台番号および型式はすべて大文字に変換されるため、大文字と小文字どちらで入力しても構いません。

電子車検証（普通車の場合）での各項目の記載位置は、以下のとおりです。

なお、車検証等や軽自動車の車検証では記載位置が異なります。

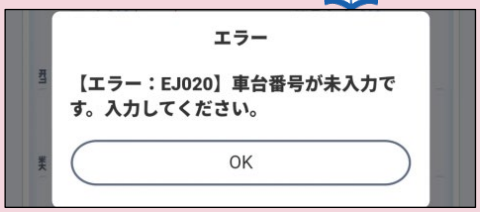


3. 「確定」を押す

ご注意

入力に不備がある場合、エラーメッセージが表示されます。メッセージに従って、入力をやり直してください。

エラーの詳細については、「9.2 エラーメッセージと対処方法」を参照してください。



入力した車両情報が登録されると《車両受付》画面に戻ります。

以下のように、入力した情報が反映されます。

以上で、車両情報の入力（「車両情報手入力」の場合）の操作は完了です。

次の操作を行う場合

「4　OBD 検査要否確認を行う」に進みます。

入力をやり直したい場合

再度、手順 **1.**から始めてください。